Kochi International Association

(財)高知県国際交流協会

2008 世界の笑顔集まれ

WINDOW

ブラジルパラナ州・アプカラナ市日本文化体育協会にある「さくらばし」

コチア市民による歓迎の横断幕

日本移民ブラジル上陸記念碑(サントス)

2008
Autumn
No.49

特集 ブラジル移住100周年～海を渡った高知県人～

- 今年度の在住外国人向け南海地震対策
- 2008ジュニア国際大学
- 韓国光州国際高校との姉妹校提携
- 新しい国際交流員の紹介　劉 鵬(中国)
- 民間国際交流団体紹介
  高知日仏協会
- Letter from abroad
  所谷壽美(パラグアイ)
- INFORMATION　BOARD
  「国際ふれあい広場2008」のご案内

今年度の在住外国人向け南海地震対策

平成19年度から当協会が本格的に取り組み始めた在住外国人向け南海地震対策は、今年度も少しずつですが着実に一歩一歩前進しています。今回は、昨年度の取り組みの概要と、今年度の実施事業及び来年度に予定されている事業について取り上げたいと思います。

1）昨年度の取り組みの概要

①６カ国語による南海地震に備えてのパンフレットの発行・配布
②６カ国語によるＨＰでの防災情報の提供
③災害時語学サポーター養成講座の開催

６カ国語による南海地震に備えてのパンフレット（Ａ４サイズ、本文20ページ、全カラー）は、英語1000冊、中国語1500冊、タガログ語600冊、韓国語・インドネシア語・ベトナム語各300冊の合計4000冊を発行し、留学生のいる県内大学や研修生を受け入れている組合、JETプログラムの外国青年、中国残留孤児、在住外国人を支援する民間団体などに配布しました。現在でも希望者に無料で配布しています。ＨＰ（ホームページ）上では、パンフレットと同じ内容のものをHTML版とPDF版で掲載しています。中国語については音声情報もあわせて提供しています。

→　http://www.kochi-kia.or.jp/earthquake/index.htm

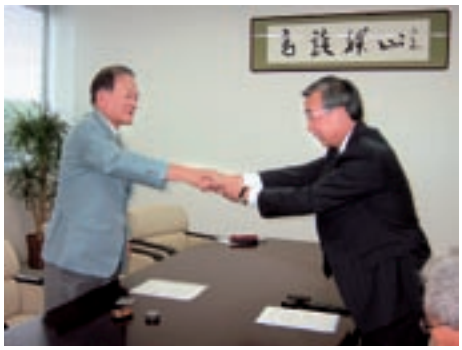
６ヵ国語パンフレット

また、昨年の7月28日（土）・29日（日）に、南海地震などの大災害発生時に在住外国人を言葉の面で支援する「災害時語学サポーター」を養成する講座を高知市内で開催し、31名の方が受講されました。

2）今年度の実施事業

①㈱エフエム高知との語学サポーター派遣協定、放送訓練（８月２６日）
②折りたたみ式災害用携帯カードの作成・配布（９月１日～）
③災害時語学サポーター養成講座の開催（９月６日・７日）
④在住外国人対象の防災訓練の実施（９月２８日）

去る８月26日に、南海地震などの大災害が発生してからの災害情報を、当協会に登録している災害時語学サポーターを派遣し外国語により放送する協定（９月１日発効）を㈱エフエム高知と締結しました。これは事後の災害情報をマスメディアを通じて提供する術を得たという意味で極めて画期的な取り決めです。そして締結式終了後、災害時語学サポーター５名（英語２名、中国語１名、韓国語１名、インドネシア語１名）にスタジオに集まっていただき、外国語による災害情報の放送訓練を体験していただきました。


締結式の様子
（左：当協会橋井理事長、右：エフエム高知小笠原社長）

放送訓練の様子

次の折りたたみ式災害用携帯カードは、大災害発生直後に役立つ文例集と171（災害用伝言ダイヤル）などの緊急電話番号や個人データを記入できる欄を設け、折りたためば外国人登録証とほぼ同サイズになるようにし、破れにくく水にも強い特殊な紙を使い、英語1500枚、中国語2000枚、韓国語・インドネシア語各500枚の合計4500枚を発行し、関係機関や希望する個人に配布できる運びとなりました。

英語のカード1枚表と裏

また、今年も災害時語学サポーター養成講座を開催し（９月６日・７日）、県内在住の39名の方（内、外国籍の方12名）に受講していただきました。今年の養成講座では、２者間・３者間コミュニケーションのロールプレイを中心に学習しましたが、在住外国人対象の防災訓練に向けた準備作業として応急手当マニュアル（止血法・搬送法・固定法）の翻訳も行いました。

養成講座の様子

最後の在住外国人対象の防災訓練の様子については、今回の入稿に間に合わなかったので、次号のＷＩＮＤＯＷに掲載することにします。

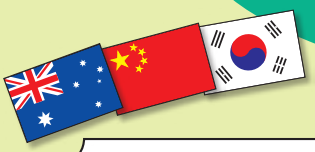
３）来年度の実施予定事業

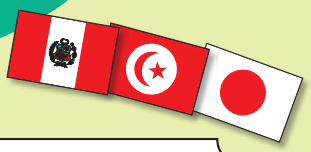
災害時語学サポーター養成講座と在住外国人対象の防災訓練、エフエム高知での放送訓練は来年度も引き続き実施していきたいと考えています。

今年度作成できなかったタガログ語とベトナム語版の折りたたみ式災害用携帯カード、やさしい日本語による南海地震に備えてのパンフレットは来年度に発行するため準備を進めます。

また、今回エフエム高知と協定したように、他の放送局との協定や、その他関係機関との連携についても視野に入れながら、取り組みを強化していきたいと考えています。

2008ジュニア国際大学





- 開催日時：平成20年6月28日（土）10時～16時
- 会　　場：県立青少年の家大集会室（いの町天王）
- 目　　的：小学校高学年（4年生～6年生）を対象に、国際理解や異文化コミュニケーションに必要な基本的知識・技能を習得させ、21世紀を担う未来の「国際土佐人」を育成する。
- 参 加 費：1,000円（昼食代・保険料含む）

今年も、いの町天王にある県立青少年の家大集会室にて開催したジュニア国際大学に、36名の小学生（４年生10名、５年生15名、６年生11名）が集まってくれました。

午前の授業では、吉岡栄作先生（「国際理解の風を創る会」所属）が、ご自分が３年間滞在したメキシコについてクイズなどをとおして紹介し、参加小学生に中米の国を理解していただきました。

午後の授業では、オーストラリア、中国、韓国、チュニジア、ペルー出身の外国人先生と現地の遊びをその国の言葉で体験しました。韓国の遊びでは３の倍数と３の付く数字のときに手拍子をする、日本のお笑い芸人のネタに似ている遊びが紹介されると、子どもたちは間違えないように真剣に韓国語で数字を言い合い、手拍子をしていました。

最後の授業では、松尾泰輔先生（JICA国際協力推進員）による「世界がもし100人の村だったら」を、参加小学生に保護者を加えて「世界がもし40人の村だったら」に置き換え、世界の富がいかに日本のような先進国に集中しているかについて、大陸別・国別に人口割で分けられた子供たちに、その大陸・国が持つ富の分のキャンディを分配することで参加小学生に理解してもらうなどの授業を行いました。

来年もジュニア国際大学を開催しますので、是非、対象となる小学生には入学して欲しいと思います。

特集　ブラジル移住100周年

日本人の海外移住の歴史は、1866年（慶応2年）に江戸幕府が日本人の海外渡航を許可した時に始まり住を皮切りに、1885年には第1回「ハワイ官約移民」945名が横浜港を出航しました。日本人労働者が最協約の締結により、太平洋を渡る日本人の北アメリカへの移住の歴史は大きく方向転換することになり41年）4月、158家族781名を乗せた「笠戸丸」が新天地・ブラジルを目指して神戸港を出航、6月18日には

あれから100年、高知県からブラジル移住100周年をお祝いするため訪問団が派遣されました。訪問にあたる海外技術研修員の皆さんにもお話を伺いましたのでご紹介します。

今年は日本人のブラジル移住100周年として、両国で様々な記念行事が開催されています。1908年に最初の契約移民を募集したのは高知県出身の水野龍氏であり、その最初の移民船「笠戸丸」には高知県からも18人が乗船、ブラジルへ渡ったことから、高知県人のブラジル移住100周年でもあります。

この大きな節目の年をともにお祝いするため、知事を団長とする「ブラジル日本人移住100周年記念高知県訪問団」が６月13日から24日まで、ブラジルを訪問しました。

●ブラジル高知県人会の式典

６月15日ブラジル高知県人会館で、「高知県人ブラジル移住100周年並びに高知県人会創立55周年記念式典」が開催されました。式典は、正面に掲げられた日本とブラジル、両国の国旗に向かっての国家斉唱から始まりました。１世の方にとって日本や高知はふるさとですが、２世や３世のブラジルで生まれ育った方々にとっての祖国はブラジルで、日本や高知は父母や祖父母のふるさとであり、自分達のルーツの国となります。

高知県人ブラジル移住100周年並びに
高知県人会創立55周年記念式典

県人会の高橋一水会長は、「高知県人の移住100周年、県人会創立55周年をともに祝うこの日を迎えることができて感無量です。ブラジルの日系人の人口は多くないが、勤勉さなどで高く評価されていることを誇りに思います。県人会は55周年を迎え、世代が移っていくとともに県人意識は薄れつつあり、県人会の維持も難しくなっているが、若い世代に期待しています。」とあいさつされました。

祝賀会（高知県人会館にて）

式典後の祝賀会では、県人会婦人部を中心とした皆さんによる日本食、土佐料理を囲みました。テーブルにはたくさんの日本食が所狭しと並び、中には現在の高知ではあまり見ることのない、伝統的な土佐料理もありました。この県人会の料理はサンパウロに駐在している日本人には有名で、会員以外の方も喜んで食べに来るといいます。

そこは地球の反対側でありながら、実際の高知以上に高知であり、土佐人としての誇りが息づいていると感じました。

●日本人、日系人への信頼と尊敬

海外移住した日本人はその勤勉で実直な働きぶりから、現在でもそれぞれの地で信頼されています。今回のブラジル訪問でも、いの町の姉妹都市であるコチア市の市長から日本人や日系人に「信頼と尊敬、そして愛情を持っている」と大歓迎を受けました。

現地の移住者は世代が３世、４世へと交代しており、日本語が話せない人も増えていますが、こうした日系人への信頼と尊敬は、共通の財産になっています。

●海外で活躍した高知県人

ブラジル以外にも、海外には多くの高知県人が移住しています。高知県出身者で組織する県人会は、アメリカのカリフォルニア州に３団体、中南米にはブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビア、ドミニカ共和国にあり、高知との交流の窓口となっています。また、ハワイやペルーなどにも移住しています。

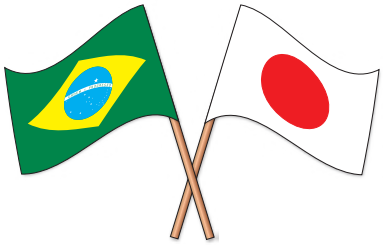
高知県から海外への移住者には、移住地において大きな功績を残した人が少なくありませんが、高知県内ではあまり知られていないようです。今年は県内でもあちこちで移住者に関する催しが企画されていますので、海外に渡った本県の先人達や日系人について知っていただきたいと思います。

県人会功労者表彰

高知県文化・国際課　西野　美香

年 ～海を渡った高知県人～

ります。そして、1868年（明治元年）の日本人153名の「元年者」と呼ばれるハワイへの集団移
最初に集団で海外に渡ったのは、ハワイと北アメリカの西海岸でしたが、1908年の日米紳士
り、次に白羽の矢が立ったのが、南アメリカへの日本人移住でした。こうして、1908年（明治
ブラジル・サントスに記念すべき上陸の第一歩をしるしました。
団による移住地の様子と南米3ヵ国から高知県に研修で来られている県人移住者の2世・3世



研修生へのインタビュー

■あなたの家族が南米に移住したのは、いつですか？あなたは、日系何世になりますか？

（秦泉寺さん）
曾祖父と祖父兄弟が昭和10年に香我美町からブラジルに移住した。母はブラジル生まれの２世で、父はブラジル人、僕は日系３世です。

秦泉寺さん

（小田さん）
祖父母と父が昭和35年に越知町からパラグアイに移住した。私は日系２世です。

（宮脇さん）
祖父母が昭和32年に大正町からパラグアイに移住し、父と母はパラグアイ生まれ。父が12歳の時にアルゼンチンに再移住し、私はアルゼンチン生まれの日系３世です。

■移住当初は、ご苦労も多かったと思いますが、おじいさんやお父さんたちから移住当時の話を何か聞いたことがありますか？

（秦泉寺さん）
最初は、イテゥベラバという所でコーヒー栽培を行ったが、その時代は皆が苦労して大変な時代だったと聞いた。

（小田さん）
道づくりや畑を開墾するのが大変だったと聞いている。移住１世の方たちは、さまざまな苦労を乗り越え頑張ってすごいと思う。

小田さん

（宮脇さん）
花卉栽培が軌道に乗るまで大変だった。いろんな苦労があったと思うが、あきらめず頑張って今がある。そんな両親を尊敬している。

■今年は日本人が初めてブラジルに移住して100周年という記念の年ですが、パラグアイ、アルゼンチンにも長い移住の歴史があります。こうした移住の歴史を考えた時、あなたたち若者はどのように感じますか？

（秦泉寺さん）
ブラジルで一旗揚げようと夢見て移住したが、現実は厳しかったと思う。それでも日本人は真面目に働き、ブラジルで信用を得ることができた。今の若者は、そうした移住１世の方たちのつけてくれた道（良い評価）があるので、今もそれを受け継いでいる。

（小田さん）
せっかく移住１世の方たちが苦労して切り拓いた移住地から、若者は出稼ぎに出て帰らないなど後継者が少なくなっている。昔の苦労が今につながらないのはもったいないと思う。移住地内で仕事ができるように、もっと地域が活性化すれば良いと思う。

宮脇さん

（宮脇さん）
パラグアイでは米作り、アルゼンチンでは花卉栽培と祖父母たちは今日まで本当によく頑張ったと思っている。

■自分が日系人ということを意識しますか？　それは、どんな時に意識しますか？

（秦泉寺さん）
毎日のように意識する。なぜなら、ブラジル人の友だちからは日本人と言われるし、日本人のコミュニティに近い所に住んでいるのでお祭りなど日本の文化に触れる機会が多いから。ただ、３世、４世になると日系人としての意識も薄れがちになる。日本とブラジルの良い所を生かしていければと思う。

（小田さん）
意識する。家庭内での躾、習慣、マナー等は日本人独特のものがあり、２世たちも遠慮すること、思いやりを持つという気質を受け継いでいると思う。特に母は相手を気遣う思いやりがあり、私も母のようになりたいと思っている。

（宮脇さん）
家庭内に日本の文化や習慣が残っており、意識することが多い。

■日本に来る前は、日本（又は高知）に対して、どのようなイメージを持っていましたか？

（秦泉寺さん）
来日前から日本の経済や技術は進んでいることを知っていた。高知に来て感じたことは、日本人は信号をきちんと守って横断歩道を渡っているのに感心した。

（小田さん）
日本のことは、来日経験のある兄や友人から話を聞いて想像するだけだったが、実際に自分が来日して兄たちの言っていたことを実感した。道路は狭いが交通ルールが良く守られている。コンビニがたくさんあり便利。治安がよく、人は親切など･･･。

（宮脇さん）
兄が研修生として高知県に来た時の写真を見せてもらった。高知はトンネルが多いですね。道路が狭いと感じましたが、生活するにはいろいろ便利です。

■日本に永住してみたいと思いますか？

（秦泉寺さん、宮脇さん）
ブラジル（パラグアイ）に家族がいるので、日本に永住したいとは思いません。

（小田さん）
５年くらいなら住んでみてもいいと思う。日本人は仕事に追われているように感じるので、ずっと住むならのんびりしたパラグアイがいいです。

秦泉寺ゾッケ・ジュリアーノさん（後）
小田佐藤クリスティーナ・知香さん（左）
宮脇ルシア・ラウラさん（右）

移住１世の方々が汗と努力と英知をもって築き上げてきた日系人に対するゆるぎない信頼は、これからも若い世代にしっかり引き継がれていくことでしょう。

（日本人中南米移住の略史）

・1899年（明治32年）	ペルーへの第1回移民790名が日本を出発 ペルー向け第1陣移住者のうち91人がボリビアに入植
・1908年（明治41年）	ブラジルへの第1回移民158家族781名が「笠戸丸」で神戸港を出航 第1回笠戸丸移住者の一部がアルゼンチンへ転住
・1936年（昭和11年）	パラグアイへの第1回移民がラ・コルメラ移住地に入植
・1952年（昭和27年）	戦後のブラジル移住第1陣「辻枠」によるアマゾン移民54名が神戸港を出発
・1954年（昭和29年）	戦後のパラグアイ移住第1陣がラ・コルメラ移住地に出発
・1955年（昭和30年）	ボリビア行き移民第1陣「西川移民」が出発 ブラジル・コチア青年移民第1陣が出発
・1956年（昭和31年）	ドミニカ行きの計画移民第1陣が日本を出発
・1957年（昭和32年）	ボリビア・サンファン移住地に計画移民第1陣が日本を出発
・1959年（昭和34年）	アルゼンチンに計画移民第1陣が日本を出発
・1999年（平成11年）	ペルー及びボリビア日本人移住100周年
・2008年（平成20年）	ブラジル日本人移住100周年・日伯交流年

韓国光州国際高校との姉妹校提携

「姉妹校提携の調印」
明徳義塾高校の吉田校長先生（左）
韓国国際高校の韓　校長先生（右）

光州国際高校とは、2002年に高知県国際交流協会を通して、同校修学旅行の一環として30名の生徒を受け入れ、生徒同士が交流するところから始まりました。その２ヵ月後、国際高校の生徒が１名正規留学生として留学してきました。ほとんど日本語のできないその生徒は、寮生活をしながら日本の文化、風習の中で多くの友人を作り、３年後には日本の大学に進学しました。それ以降も交流は続き、今年３月に本校学校長が国際高校を訪問し、正式に姉妹校提携の調印を行いました。国際高校との交流は８年にも及ぶもので、お互いが深い信頼関係を築いております。姉妹校提携には学校間同士の信頼関係が不可欠で、表面的な提携だけでは真の国際交流はできません。そう言った意味でも国際高校とは古くからの友人のような関係であります。

今年の７月、姉妹校提携の記念行事として、今度は本校の生徒が国際高校を４日間訪問し、ホームステイしながら英語劇の公演「ペリクリーズ（シェイクスピア作）」を行いました。この頃、韓国では竹島問題が大きく取り上げられていましたが、両校の学校長は「このような状況だからこそ民間の交流を実現させることに意義があるのだ。」と意見を同じくし、実現することができました。国際高校に着いたときには夜の９時半にも関わらず校長先生をはじめ多くの先生方、また、受け入れてくれる全てのホストファミリーが出迎えてくれました。このような心からの歓待の中で公演も成功し、生徒たちは異文化の生活を満喫しておりました。生徒からは、「短い間でしたが、ホストファミリーはとても優しくしてくれました。明徳には多くの韓国からの留学生がいますが、ここで受けた恩を明徳に帰ったら留学生たちに返してあげたい」等といっておりました。

今後、両校の生徒間、教員間の交流を積極的に行い、両校生徒の国際教育の為、また日韓友好の為にさらに国際交流を発展させていければと願っております。

「晴れやかに記念撮影」韓国国際高校にて

明徳義塾高等学校
国際交流部　和田利一

当協会が平成12年度から継続してきた韓国全羅南道光州広域市の国際高等学校との相互交流事業も、これまでに高知県からは120名の中高生を韓国に派遣、韓国からは261名の高校生を高知県に受け入れてきました。国際高校の生徒が来高した際には何度も明徳義塾高校に受け入れていただき、こうしたご縁もあり、平成20年3月29日めでたく明徳義塾高等学校と韓国国際高等学校とが姉妹校提携の調印を行いました。

当協会の日韓相互交流事業の実施に当たり、お世話になった各学校及びホームステイ受入家庭等関係者の皆様に、これまでのご協力に対するお礼と『姉妹校提携』という新たな絆が確立されたことのご報告をさせていただき、これを機に当協会の日韓相互交流事業の一区切りとさせていただきます。

両校の今後ますますの交流とご発展を期待しております。

財団法人高知県国際交流協会

新しい国際交流員の紹介

劉（リュウ）　鵬（ホウ）
（中国遼寧省出身）

はじめまして。中国安徽省から参りました国際交流員の劉鵬と申します。県の文化・国際課に勤め、翻訳や国際交流などの仕事をしています。来日前は安徽省の国際交流の窓口である安徽省外事弁公室に勤めていましたが、日本に来たのは今回が初めてです。安徽省と高知県は1994年に友好姉妹省県の関係を締結しています。高知については、外弁の先輩から事前にいろいろ教えてもらい、高知の状況を少し理解していました。たとえば、高知は漫画と森林で有名とか、魚がとてもおいしいとか･･･。高知という土佐の国は一体どんなところだろうと興味がわきました。

時間が経つにつれて高知の生活にもだんだん慣れてきました。恵まれた環境、新鮮な空気、きれいな街、おいしい食べ物、素朴な民間風俗、そして親切な方々、高知に来てまだ日が浅いですが高知が大好きになり、これからの一年間を楽しみにしています。

安徽省は中国の東に位置し、人口6,500万人の内陸の地で、世界遺産の黄山をはじめ、たくさんの名所旧跡があります。また、美しい自然、独特の酒文化や豊かな人情など、高知県と似ています。これから安徽省の文化と風俗などを県民の皆さんに紹介しながら、高知県の優れたところや国民の優しさを安徽省の人々に伝えたいと思います。中日友好の架け橋として、安徽省と高知県の友好往来と交流を深めるために一生懸命がんばりたいと思います。

民間国際交流団体紹介

『高知日仏協会』

会長　佐　竹　茂　市

「パンの神様」ことビゴさんのパン教室参加者の皆さんと

1983年、高知大学仏文研究室の第一回卒業生が出たのをきっかけに当時の西沢弘順・同大学長（初代会長）らを発起人に設立された文化団体です。「フランスとの友好、交流の推進、フランス文化の普及」を目的に活動を展開していましたが、西沢会長の逝去などから一時活動を休止。92年、現・龍馬学園学園長佐竹茂市を2代目会長とし、再発足しました。以後、毎年フランスの革命記念日に合わせ開催するパリ祭（会員中心の懇親会）をはじめ、講演会、映画会、音楽会、ほぼ隔年の訪仏ミッションの実施、フランス人研修生の県内企業への受け入れ斡旋などの事業を展開しています。

近年の活動では、トゥールーズ・オゼンヌ高校の生徒15人を３週間にわたって招き、高知南高校へのホームステイ斡旋や、文化体験による留学支援をしたほか、北川村＜モネの庭＞マルモッタン開園に伴うお手伝いや、高知市とアングレーム市のマンガが結ぶ姉妹都市提携への支援、アングレーム市で開催される国際マンガフェスティバルへの参加などがあります。また主催事業としては仏人“食の大使”であるフィリップ・ビゴ氏を招いてのパン作り講習会や小学校へのフランス文化出張授業、フランス語教室なども行っています。

会員は法人、個人合わせて約100人、細く長くをモットーに地道に活動を続けています。留学・旅行・翻訳などのお手伝いもできますので、興味のある方は是非ご連絡ください。フランスに関するミニ図書館もあります。

事務局

〒780-0056　高知市北本町1-5-3　龍馬看護ふくし専門学校内1Ｆ
TEL：088-820-1006　　FAX：088-820-1017
メールアドレス　societefjk@mail.goo.ne.jp
事務局長　大谷衣乃

Letter from abroad

南米パラグアイからのたより

JICAパラグアイ日系社会シニアボランティア
所　谷　壽　美

ポスターのモデルになった所谷壽美さん

パラグアイ日系社会の高齢者福祉対策を行うためにシニアボランティアとして赴任して、早14ヵ月が過ぎようとしています。ここは日本人が多く、親日的国民でもあるためとても住みやすく、妻ともども異国を満喫しながら充実した日々を過ごしています。

パラグアイは日本の反対側に位置し、緯度は沖縄と同程度で、亜熱帯地域になります。公用語はスペイン語と先住民の言語であるグァラニー語が広く話されています。

通貨はグァラニーで、現在１ドルが約4,000グァラニーです。昨年当初に比べドル安で生活用品などは値上がりしており、庶民の台所は苦しくなっています。それでも肉はとても安く日本の10分の１程度、ビールは大瓶130円ほど、ワインは１本800円も出せば高級なアルゼンチン産やチリ産が飲めます。平均で日本の３分の１程度の物価です。フルーツはおいしく、果物の女王といわれるマンゴスチンなど珍しいものがいっぱいです。

ラパチョの花が満開

私たちが住んでいる首都アスンシオンは、緑が多く治安もよく、とても便利な場所です。今は桜の花に似たラパチョの花が満開で、いたるところにピンクの花を咲かせています。

パラグアイ国への日本人集団移住は1936年にはじまり、日本全国から7,000人余りがきており、その中でも高知県からは1,300人が入植されています。特に高幡地域から多く、大正150人、梼原140人、窪川120人などとなっています。２千町歩以上も畑を耕作している高知県出身者もいて、大豆やトウモロコシ、小麦やひまわりなどを栽培しています。

のんびりとした南米の気候風土の中、古き良き日本や戦後間もないころの温かな隣組を形成していた土佐の心意気が残っていて、なんとも心地よい気分に浸ることができます。

もっと詳しくパラグアイのことを知りたい方はGoogleで「パラグアイの風に」を検索してください。高知県職員労働組合のホームページに私のコーナーがあります（**http://www.kensyokuro-kochi.jp/paragkaze.htm**）。そこにはパラグアイのことがいっぱい書いてありますので、是非ご覧になってください。

INFORMATION BOARD

「国際ふれあい広場2008」のご案内

今年も国際協力・交流に関する総合イベント「国際ふれあい広場2008」を以下のとおり開催します。盛り沢山の内容となっていますので、お誘い合わせの上ぜひお越しください。

主催 財団法人高知県国際交流協会

共催 JICA四国（独立行政法人国際協力機構四国支部）

協賛 JAL高知支店（株式会社日本航空インターナショナル高知支店）

日時 10月18日㈯・19日㈰　10:00～17:00（催し物により時間が異なります）

会場 ひろめ市場イベント広場、人権啓発センターホール、高知県国際交流協会フロア、等

内容

18日

- 雨宮清さん（山梨日立建機株式会社 社長）による基調講演会（13:00～14:30）
  講演テーマ「地雷除去に挑む　～豊かで平和な大地への復興～」
- 国際土佐っ子メッセージ（14:45～16:45）－中学・高校生による弁論大会－
  最優秀発表者には高知－東京間JAL往復無料航空券が贈呈されます。
- チャリティを目的としたインドネシア・グアテマラ民芸品の展示販売
- ロサ・ペレス=トフ　スピーキング・ツアー（会場：県民文化ホール）
  （グアテマラ先住民による講演会）（18:30～20:30）
- 国際協力・交流活動写真パネル展　他

雨宮清さん

ロサ・ペレス=トフさん

19日

- ワールドキッチン（10:30～15:00）
  －スウェーデン・ネパール・ブラジル料理を賞味するコーナー－
- チャリティを目的としたラオス・インドネシア・グアテマラ・ケニア民芸品の展示販売
- 高知城英語ガイド学習会
- JICAボランティア体験談＆募集説明会（13:00～18:30）
- 民間国際協力団体による活動報告会
- 国際協力・交流活動写真パネル展　他

詳しくは、当協会HPをご覧ください➡ 高知県国際交流協会 検索

昨年の海外民芸品展示販売会の様子

広告

一般英会話クラス
中学・高校生クラス
こども英会話クラス
キティスクール
（毎週土曜日・２歳～小学生対象）

http://nichibei.tv

〒780-0862　高知市鷹匠町 1-2-47
TEL : 088-823-8118
E-mail : nichibei@nichibei.tv

（財）高知県国際交流協会　〒780-0870　高知県高知市本町4-1-37
TEL：088-875-0022　FAX：088-875-4929　HP：http://www.kochi-kia.or.jp/　e-mail：info_kia@kochi-kia.or.jp